

		絵本の会ぽかぽか
日時		平成30年8月30日 15時～16時15分
場所		おずふらざ(テクスピア大阪5階)
活動概要	活動内容	絵本の広場(幼稚園・保育所・地域の図書館で開催) 文字の少ない絵本を、表紙が見えるように教室に並べて、子供たちが読みたい本を選んで読む。(子ども同士で読んだり、メンバーに依頼したり。) 年間18回開催。 その他、図書館の2階スペースを活用した読み聞かせイベント(180人参加)、高齢者施設等のクリスマス会でミュージックベル等を実施。
	活動経緯	2012年6月から活動。 子育て支援活動を行っていたグループを継続するために、本を読むことであれば、誰でもできるということで、会を立ち上げ。 (絵本研究家の加藤啓子氏との出会いがきっかけ)
	活動目的	より多くの子供たちに絵本に親しむ機会をつくりたい。 絵本をおかわりをしてもらうこと
	活動資金	会費 社会人活用(教育委員会)(3,000円/回) がんばろう基金(講演会の講師代) 平成28年に伊藤忠財団の補助を受け、絵本を購入 イオンの幸せの黄色いシート 等
	行政・学校との係わり	地域の福祉施設での活動 市の文化祭への参加(講演会を開催)
	スタッフの状況	会員21名。(全員女性、40代以上、乳幼児の子育てを終わった世代。) 仕事を持っている人も多く、他の活動をしていたり、忙しい。
課題と今後の展開	現在抱える課題	本の置場所(400冊以上、寄付でもらった本も多い。) 現在は個人宅に置いている。(伊藤忠財団の補助要件は公共施設に置くことであり、現在は守れていない。) 面展台(25枚程度)も個人宅に置いている。 常時展示できるスペース、活動拠点があると良い。
	これから の展開	新しい図書館に子どもが自由に遊べるスペースなどあれば、関わっていきたい。 現在の図書館では、目的を持たないと来ない。(お話し会が月2回、2階で開催されているが、人が減ったのではないか?) 高石のようなガラス張りの部屋であれば、ふらつと寄ったときに、中で絵本の広場などしていると入りやすい。
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	地域の自治会、東陽フェスタ、条東ミント、池ノ浦の駄菓子屋さんなど個人でも自由に活動できる仕組みが必要。(眠っている人材がいる。)
	イチオシの団体・人物	川端氏(絵本の専門誌の方) ブックスタート 学校の司書の方の意見を聞くと良い。 保育所の保護者など子育て中の方の意見も聞くべき。

絵本の会ぽかぽか	
日時	平成30年8月30日 15時～16時15分
場所	おずぶらざ(テクスピア大阪5階)
その他	<p>■現行の図書館について 図書館の倉庫に人形劇セットがおいてあるが、古くなつており、使い物にならないと聞いた。スペースを有効活用してほしい。 泉大津の図書館は人が少ないため、サービスが悪い(本を探してくれない。高石や和泉と比べてスタッフの質が悪い。) 落丁、落書きなどがあり、メンテナンスがされていない。</p> <p>■新図書館について 駅前に移転することで、面積が約2倍になるというが、床荷重の問題で、蔵書をすべて持つていけないと聞いている。貸出の運用をどうするのか。 人口規模から考えると1館のみに固執するのはどうか。分館としての駅前図書館を考えられないか。また、昔は自動車文庫などもあった。 駅前の商業施設が空いているのなら、図書館よりもっと古い公共施設の移転が先ではないか。 自転車問題(2時間超えるとお金がかかる)でダイエーに人が行かなくなつた。2段目には電気自転車はおけない。お金がかかると子供たちが気軽にに行けない。 また商業施設の中にあるということで、子供だけで行かすには不安がある。 高齢者は図書館まで行く体力がない。 検討会議を傍聴したが、駅前への移転が前提となつていて違和感を感じる。駅前図書館をつくっても若者を集めることにはどこも苦労している。(大阪市では、インターネットでの貸し出しシステムを進めている。) 既存の図書館のリформのワークショップをしており、既存図書館の在り方も並行して検討し、資金なども考えて、どちらがよいか判断しても良いのではないか。 どうせ作るなら、他市の人々が来たいと思える図書館にしてほしい。</p>

		りぶれEBISU
日時		平成30年9月8日 9時15分～10時15分
場所		戎小学校図書室
活動概要	活動内容	毎週土曜日、9時～12時 戎小学校の図書室を地域開放している。
	活動経緯	3年前に大阪府の「おおさか元気広場」事業を活用して始めたのがきっかけ。
	活動目的	図書室の特性を生かした子どもの居場所づくり 高齢者と子供との多世代交流
	活動資金	おおさか元気広場事業(市を通じて補助金を受け取っている。)
	行政・学校との係わり	学校司書とは、年2回、話し合いの場をもっている。 保育園・幼稚園が合同で運動会を開催した際に、休憩場所として利用してもらったことがある。
	スタッフの状況	9名。50～60代が中心。高校時代からかかわっている大学生も在籍。 知り合いの声掛けで増えている。
課題と今後の展開	現在抱える課題	場所・資金には恵まれている。 子どもたちの輪を広げていきたい。(新しく来てもらう子どもを増やすことが課題。チラシ、ポスターで周知しているが、一番は口コミ。) 穴師や池浦からも来る人がいる。 小学校のグラウンドで、サッカーレッスン等があるときに、下の子供をつれたお母さんが休憩したりしている。
	これからの展開	現在は工作が中心。子供たちが望んでいる企画をするようにしている。 地域交流、高齢者にもう少し参加してほしい。独居老人など。長寿園のサロンと時間が重なっていることが課題。図書室は飲食が禁止なので、食事等が出るサロンに行かれることが多い。 子供に教えるものがないと思われ、高齢者が気軽に来てもらえない。居場所がないと思われている。お孫さんを連れてくる方も多いので、気軽に来てほしい。
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	NPOのどか、絵本の会ぽかぽか、高石市の社協ボランティア(マジックをしてもらっている。個人のつながりで依頼)
	イチオシの団体・人物	図書団体は少ない。 ボランティアセンターで図書団体に集まつてもらったときは、まちライブラリーほんのわ、浜助松、EBISUの3団体。)

	りぶれEBISU
日時	平成30年9月8日 9時15分～10時15分
場所	戎小学校図書室
その他	<p>■現行の図書館について 子どもが欲しい本、小さい子どもに読み聞かせをすることを条件に買うこともある。まんが日本の〇〇〇シリーズは、人気がある。 座るスペースが少ない。 本がないときの対応、府立図書館への照会など、インターネットを使ったシステムの場合、どうなっているのか。</p> <p>■新図書館について 駐輪場が現状いっぱいであり、高架下の市営駐輪場では少し遠いのでは。 現在図書館の二階で行っているにんじんサロンはどうなるのか。 寝転がって本を読むスペースは必要。(現在の2階のように) 一角にお茶、子供がおかしを食べれるスペースがあるとよい。</p> <p>■その他 本町自治会が少しやる気になっていると聞いている。 地域から本を集めると、子供向けの本が少なくなる。</p>

		ミント条東
日時		平成30年9月8日 10時30分～11時30分
場所		条東小学校図書室
活動概要	活動内容	月1回、第2土曜日、9時～11時30分。条東小学校の図書室及び1階を開放している。地域から寄付を受けた本や団体としてかった本が500冊程度あり、それらを開放している。平成29年度は、絵本の会ぽかぽかと連携してイベントを1回実施、平成30年度は、7月に社協と連携した紙芝居、9月に絵本の会ぽかぽかと連携した「えほんひろば」を実施。ミント条東オリジナルのしおりやスタンプカードを始めたところ、好評であり、利用する子供も増えた。(全校生徒に配布。イベント等を記載したチラシだと、親に渡して終わりだが、スタンプカードなどは、自分事としてとらえてもらえ、利用増につながっていると思う。)
	活動経緯	2年前、校長先生から、戎小学校の取り組みを紹介され、対角の位置にある条東小学校でもできないかと依頼されたことがきっかけ。
	活動目的	本に触れあってもらうこと。 TVやゲームではなく、本や紙芝居など、昔ながらの体験を子供たちにしてもらうこと。
	活動資金	市からの助成金
	行政・学校との係わり	市の図書館とは連携できていない。(図書館で使っていない本があれば、提供いただきたい。) 市の広報には載せさせてもらっている。 自治会には、チラシの配布、ポスターの貼り付けなど。
課題と今後の展開	スタッフの状況	10名(男5名、女5名)、住んでいる地域から2班に分けて、それぞれ2名ずつ参加。男性は玄関で交通安全などをみている。 2か月に1回、校長先生を含めた会合を行っている。
	現在抱える課題	人集め。ボランティア募集はしているが集まらない。 寄付や団体が購入した本を貸出をできるようにしたいが、管理の方法がわからない。3階の図書室の本を勘違いして借りていく子供もいるかもしれない。 司書に聞いて、分類、色分け、ナンバーリングまではしている。
地域とのつながり	これからの展開	月に2回、開放できるようにしたいが、人手が足りない。 イベントなども増やしたいが、なんでもよいわけではなく、「図書」を意識したイベント、本を好きになってもらうイベントをしたい。 11月第2土曜日は、地域の行事があり、開放できない。 小学生が中心となった活動となっているが、幅広い年齢層に気軽に来てもらいたい。(校長は、中庭で囲碁などが出来、多世代が交流できる場ができるとよいと考えられている。)
	つながりのある団体・人物	社協、ぽかぽか 自治会、ポスターなどは貼ってもらっている。
	イチオシの団体・人物	OZUすこやかネットとのコラボ企画について、一度話はしたが、内容を詰め切れなかつた。

	ミント条東
日時	平成30年9月8日 10時30分～11時30分
場所	条東小学校図書室
その他	<p>■新しい図書館</p> <p>朝借りて、電車で読めるとよい。</p> <p>子供連れだと、土日だけになる。また、平日は遅くなると借りれない。</p> <p>条東地域は、場所的に図書館が遠い。</p> <p>和泉市(府中)を使うことが多い。車を止められ、下で買い物もできる。(駐車割引もある。図書館利用で1時間、買い物で2時間)</p> <p>駅前だと、駐車場がないのではないか。</p> <p>駅前だと、子供だけで生きにくい(特に、低学年はむつかしい)</p>

		浜助松自治会文庫
日時		平成30年9月9日 13時15分～14時00分
場所		浜助松自治会館
活動概要	活動内容	月1回、第2日曜日、13時～16時、自治会館を開放している。 なにわ語り部の会として、13時30分～14時に紙芝居、手遊び、手話などをしている。
	活動経緯	2017年4月に自治会長が変わり、活性化に向けた取り組みを強化。 自治会の当番であった坂本さん(なにわ語り部の会)が、昨年度から、取り組みを開始。 市の補助金で本棚・本を購入し、また、ホンノワまちライブラリーさんが自治会に赤いポストを設置。3つの取り組みがあり、現在に至っている。
	活動目的	子どもを通じて大人を取り込みたい。
	活動資金	市民活動推進補助金(2か年、2年目は半額) 市の文化祭等にも参加。
	行政・学校との係わり	特になし 図書館から紙芝居等は借りている。
課題と今後の展開	スタッフの状況	坂本さんを役員5名(会長、副会長、書記、会計、会計監査)がサポート。 役員会の議事録の回覧や、掲示板へのポスター貼り付け等で、住民に周知している。
	現在抱える課題	自治会に入る人が少ない。入っても、入らなくても何も変わらない。差別化が必要。 現在、自治会加入率は82%。大きな宅地が分割されて新しい住宅が建ち、若い世代が引っ越してくるが、自治会に加入してもらうことが課題。ここに来てもらうことで、自治会加入のきっかけとしたい。
地域とのつながり	これからの展開	開放の日を増やしたい。団碁やかるた、オセロなど、高齢者も気軽に入ってきてもらえる場としたい。 また、地域住民から本の寄付を集ったところ、1,042冊集まった。文庫本など字が小さく、子ども向けの本も少ないため、もう1度、募集したいと思っている。 自治会としては、新しい企画を年に1つ増やしていきたい。今年は防災センター、津波ステーションの見学等、防災に力を入れた。来年はおおい原発の見学などに行ければと思つてる。
	つながりのある団体・人物	ホンノワまちライブラリー、なにわ語り部の会(本をたくさん持たれており、坂本さんは月に1回、会合に行かれている。) 他の自治会と交流が生まれつつある。(助松自治会等) おずぶらざで集まりあつた人は、現在も来ている。
イチオシの団体・人物		

	浜助松自治会文庫
日時	平成30年9月9日 13時15分～14時00分
場所	浜助松自治会館
その他	現在の図書館はゆっくりできないため、新しい図書館には、仕切ったコーナー等を多く設け、ゆっくりと調べものができたり、本が読める空間があるとよい。 また、現在の図書館は駐車場が狭い。

		あすと絵本の会 しいんず
日時		平成30年9月15日 15時00分～16時15分
場所		あすとホール
活動概要	活動内容	月1回、絵本の読み語り会(第4日曜日11時～11時30分) 年1回、夏休みにイベントを企画、開催 絵本フォーラムを年に1回開催。 アウトドア活動として、保育所・幼稚園・小学校・学童などで活動。 ブラックシアター、ペーパーサート(紙人形劇)、ベル等。 本の貸し出しなどもしている。(貸出数は増えており、しいんずが選ぶ絵本が人気)
	活動経緯	あすとホールができるとき(約16年前)に、あみ文庫、ぐーちょきぱーの方等、5～6人集まって、ワークショップを通じて、グループを立ち上げた。
	活動目的	子供たちに本を伝えたい。親子で来てもらい、母親にも本を好きになってもらう。TVと違い、子供に向かって声を伝えることが大事。 「絵本の楽しさ・素晴らしさ」を知っていただき、より豊かな人間性をはぐくんでいただける ような様々な活動をしている。(HPより)
	活動資金	あすとホールの運営費(イベントの備品代など) 教育委員会の社会人枠の費用
	行政・学校との係わり	図書館には、団体貸し出しとして、長期の貸し出しをしてもらっている。(読み聞かせの準備期間が必要なため。) 子育て支援センターから、パネルシアターの貸し出し依頼があったが断った。(道具を使うにも訓練が必要であり、貸出だけはだめ。)
	スタッフの状況	10名。40代～70代。50～60代が多い。 読み語り会に参加された方がメンバーになるケースもあり。 教育関係者のOBさんが多い。
課題と今後の展開	現在抱える課題	集客、PR。泉大津市はPRが下手。広報誌なども、子供向け、高齢者向けなどのイベントをまとめたページがあると、読み手も情報を探しやすい。 メンバーの人数が増えない。幼稚園など平日の午前中に依頼されることがあるが、行ける人が少ない。 駐車場がないため、広域からの集客が見込めない。 図書館にチラシなど貼ってもらっているが、貼り方が悪く、わかりにくい。
	これからの展開	現在の取り組みをしっかりと広げていきたい。 高石市のような図書館まつりがあるとよい。しいんずの活動を知ってもらう機会を増やしたい。
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	ぽかぽかさん(面展台の借用) ぐーちょきぱー(高石市)、高石市の図書館まつりにも参加している。
	イチオシの団体・人物	人形劇まいや(4人) ホンノワまちライブラリー。 おはなしキャラバンつばさ(本拠地は泉大津、12月に講演) そよかぜ(さわる絵本をつくっている)

	あすと絵本の会 しいずんず
日時	平成30年9月15日 15時00分～16時15分
場所	あすとホール
その他	<p>■新しい図書館</p> <p>図書館を駅前商業施設へ移転することになった発端の説明が必要。 図書館とは根の生えたもの。何十年先を考えた整備が必要ではないか。 本が増えたときなど、どうするのか。堅ろうな建物であるべき。 現行の図書館の利用状況の細かな分析が必要ではないか。年代別の利用状況、中学生の利用状況など。 駅前のほうが利用はしやすい。 字の大きさなど、現物に触れて本を選ぶため、その場に本がないと困る。</p> <p>■現行図書館</p> <p>現行図書館は、本を吟味するスペースがない。 和泉市など、企業等から寄付された本などがあつてよい。 社会を敏感に感じて本を入れてほしい。(主婦が本を書いたり、いろいろな作者の本があるが、泉大津市には入ってこない。) 窓口の人が一気に変わることがあり戸惑う。</p>

		ホンノワまちライブラリー
日時		平成30年9月26日 13時00分～14時00分
場所		泉大津市役所4階打合せコーナー
活動概要	活動内容	市内8ヶ所、いろいろな場所に小さな本箱を置いて、小さなコミュニティづくりをしている。堺市や貝塚市など近隣都市の人とも連携して取り組みを広げている。
	活動経緯	泉大津に移住した4年前から、地域とのつながりをつくるために活動。まちライブラリーのつながりの中で、学んだことを実践して活動を広げてきている。
	活動目的	子どもたちが本を手にとれるようになれば良い。 本を通じた緩やかなつながりづくり。新しいコミュニティの1つ。 自治会や婦人会など既存の組織がしんどいと感じる人もいる。社会に様々なコミュニティな形態があると暮らしやすい。
	活動資金	3年間は泉大津市のがんばろう基金を活用。 ただし、それほど資金がかかる活動ではない。 イベント等で参加費をとったりはしている。 本箱についても、それぞれが設置してくれている。
	行政・学校との係わり	イベントで地域の昔話や、学童でワークショップ等をしたことはある。
	スタッフの状況	オーナーは子育て世代(30～40代) 集まって会議等を行っており、これから始めたい人も参加してもらい、きっかけづくりをしている。
課題と今後の展開	現在抱える課題	関わってくれる人、共感してくれる人との出会い。 貝塚市では、一人が本箱を設置すると、仲間が一緒に運営しており、盛り上がりを見せている。 宣伝、知ってもらうことも課題。
	これからの展開	HPを開設し、各地域の本箱の情報発信に力を入れている。 学校、市との連携を強化したい。
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	ぽかぽかさん 若葉の森アフタースクールとは読書感想文で連携。 浜助松自治会
	イチオシの団体・人物	

	<p style="text-align: center;">ホンノワまちライブラリー</p>
日時	平成30年9月26日 13時00分～14時00分
場所	泉大津市役所4階打合せコーナー
その他	<p>■新しい図書館</p> <p>空間デザインが重要。居心地のよい空間、コミュニケーションできる場が必要。子どもが騒いでも暖かく見守れる空間が必要。</p> <p>ぽかぽかさんのイベントなどで、寝転がって本を読める空間が必要。</p> <p>現在の図書館では、その場所で本を読みたいと思えない。</p> <p>岐阜のコスモメディアでは、館長が司書をまきこんで取り組みをされている。司書が自分たちの名前でコーナーを作っている。モチベーションが高いので、対応もよい。</p> <p>新しい図書館にまちライブラリーのようなコーナーを設置するとすれば、自分たちが置きたいと、主体的に取り組めるような仕組みが重要。(場所を借りて、外の人が運営するのではだめ。)</p> <p>高石や岸和田の図書館では、コミュニティ型の図書館づくりを行っている。(本を寄贈するコーナーを設置したり、ブックスポットをPRする祭りなど。)</p>